

< 創作を柱にした指導 >
小学校第4学年（事例7）

1 題材名 「日本の音楽に親しもう」

2 題材について

本題材では、日本各地の祭りや民謡、お囃子を取り上げて、郷土の伝統的な音楽に親しみ、これらの音楽のもつ独特の味わいを感じ取る活動を進める。旋律の特徴や歌い方、歌と一緒に演奏している楽器の響きを感じ取るために、いろいろな地域の郷土の音楽を聴き比べていく。また、郷土の音楽が、日本の風土や生活の中から生まれ、その地域によって守り受け継がれてきたことに触れ、郷土の伝統的な音楽を大切にしようとする態度を育てていきたい。また、授業で簡単なリズム打ちの学習を継続して行っている。この学習を生かして、こきりこぶしに合う簡単なリズムを創作し合奏することにより、子どもたちの学習意欲を高め、郷土の音楽の味わいを深めたいと考えている。

3 題材の目標

○旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、郷土の伝統音楽に親しむようにする。

4 教材

○表現教材・「こきりこぶし」 富山県民謡 市川都志春編曲

この歌は、富山県五箇山地方に伝わる民謡で田楽（田植え祭りの音楽）として歌い継がれてきたものである。4分の4拍子12小節の短い曲であるが、拍の流れにのって歌う活動や楽器演奏及びリズム伴奏を創作するなどの活動を通して、この曲の独特の味わいを感じ取り、またそれを生かした表現をするなかで、我が国に古くから受け継がれている民謡に親しませたいと考えている。

○鑑賞教材・「郷土の音楽」

「花笠音頭」、「神田囃子」、「ソーラン節」、「会津磐梯山」、「八木節」、「木曾節」ほか

5 題材の評価規準（A 表現）

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能	観点4 鑑賞の能力
題材の 評価規準	郷土の音楽に興味をもって、進んで聴いたり演奏したりしようとしている。	郷土の音楽の特徴を感じ取って、歌い方や打楽器の演奏の仕方を工夫している。	旋律や響きの特徴を感じ取って、伸び伸びとした声で歌ったり打楽器で演奏したりしている。	人の声や楽器の音色など、郷土の音楽の特徴やよさを感じとりながら聴く。
学習活動における 評価規準	① いろいろな郷土の音楽に興味をもって聴いている。 ② リズムづくりに興味をもち、友達と協力し合って活動している。	① 郷土の音楽を聴いて、それぞれの音楽の特徴や構成を感じ取っている。 ② 旋律とリズム伴奏のバランスを考えながら演奏している。	① 自然で無理のない声で曲の気分に合った歌い方をすることができる。 ② 音量のバランスを考えながら、伸び伸びとした声で歌ったり、主旋律に合わせて副次的な旋律を演奏したりしている。	① 郷土の音楽に親しみをもち、人の声や楽器の音色の特徴を感じ取って聴く。

6 指導と評価の計画（7時間扱い）

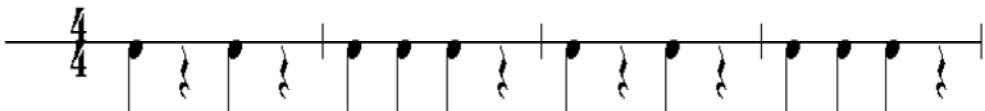
ねらい・学習活動	評価規準との関連	評価方法	学習活動活性化への視点（指導上の留意点）
＜第1次＞ 各地の郷土の音楽を聴き比べ、日本の伝統音楽に親しむ。（2時間）			
○曲の感じをつかむ ・「花笠音頭」や「神田ばやし」を聴きながら、使われている楽器の音色を見つけたり、演奏の仕方をまねしたりする。	観点2―①	観察 発表	・郷土の音楽を聴くことに意欲が喚起されるよう演奏される場面や背景を簡単に説明する。 ・教科書の写真を見ながら楽器の音色やテンポ感などを感じ取りながら聴けるようにする。
○日本各地の音楽を聴く ・それぞれの地方の音楽を聴き比べ、特徴の違いを感じ取る。	観点4―①	観察 発表	・「日本めぐり」と題していろいろな地域の音楽の特徴を感じ取れるようにする。
＜第2次＞「こきりこぶし」の曲の感じをつかみ、それを生かした演奏をする。（5時間）			
○「こきりこぶし」の曲の感じをつかむ。 ・各地の音楽と比較し曲全体の感じをつかむ。 ・使われている楽器の音色や歌い方特徴を見つける。	観点2―①	観察	・独特な歌いまわしや、使われている楽器の特徴を感じ取らせるため、いままで学習してきた曲と比較して感じ取らせる。
○旋律の特徴をつかみながら歌う ・旋律を歌詞唱する。 ・歌詞の意味を理解する。 ・2人ずつのペアーを組み、歌とリコーダーを合わせる。	観点3―①	観察	・鑑賞のときに気付いた歌い方や、普段歌っている歌い方など、いろいろな歌い方をしながら、曲の気分に合った歌い方を考えさせる。
○音楽の特徴を生かしたリズム伴奏を創作する。 ・グループごとに分かれて、4小節のリズムを考えたものを組み合わせて練習する。	観点1―②	観察 演奏聴取	・4拍子の拍の流れにのって演奏できるリズムを考える。このとき、基本リズムを提示し、合いの手となるようなリズムを創作させる。使用するリズムは、4分音符、8分音符及び休符とし、友達と協力し合って記譜するようにさせる。
○グループで合奏の練習をする。 ・グループで選んだリズムや楽器を使い「こきりこぶし」を演奏する。	観点2―②	観察	・リズム伴奏の楽器を選択するときには、皮の楽器、金属の楽器、木質系などの同じ系統の楽器の組み合わせ等を考慮させながら、グループで楽器を選んで練習させる。
○発表会をして楽しむ ・グループでの成果を発表し合う。	観点2―② 観点3―②	観察 演奏聴取	・合奏表現で工夫したことなども演奏の前に発表する。 ・主旋律である歌がはっきり聴き取れるよう、リズム伴奏や楽器の音量が大きくなりすぎないように気を付けて演奏できるよう気を配る。

7 本時の展開 (5 / 7)

(1) 本時の目標

- ・こきりこぶしの音楽の特徴を生かしたリズム伴奏を創作できるようにする。

(2) 展開

学習活動		教師の働きかけ（◆評価規準）	
1	既習曲を歌う。	・言葉の発音に気を付けてのびのびと歌うようにする。	
2	リズム打ちをする。	・黒板に掲示したリズム譜を見ながら手拍子で打つ。 （4分音符や8分音符を組み合わせたリズムカードを掲示する）	
3	本時の活動を知る。		
こきりこぶしに合うリズム伴奏をつくって演奏しよう			
4	こきりこぶしの一斉学習	・ブレス仕方や言葉の発音に気を付けて、自然で無理のないのびのびとした声で歌うようにする。 ・旋律部分やリコーダーパートを楽譜を見て視唱させるようにする。 読譜が得意でない子どもに合わせて、4小節ずつ繰り返し歌いながら慣れさせるようにする。 ・歌の旋律部分の担当とリコーダーパートの担当に分かれて視唱させるようにする。 ・音のバランスに気を付けて歌とリコーダーで合わせて演奏する。	
5	グループごとに課題を立て練習する。	・グループごとにこきりこぶしに合うリズム伴奏を考える。 （4分音符や8分音符を組み合わせてリズム伴奏をつくるようにさせる） ・下の段のリズム譜に合うリズムを考えバッテリーリズム譜をつくるようにする。  ・リズムが決まったら歌を入れて演奏し、良ければ音符や休符をグループで記入するようにする。 記譜につまずいている場合は、4分音符や8分音符の書き方についてアドバイスをする。 ・リズムづくりに興味をもち、友達と協力し合って活動している。 ◆〔音楽への関心・意欲・態度〕①	
5	本時の活動を振り返る。	・リズム伴奏を入れながら、響きのある歌声で歌えるよう練習をさせる。 ・グループごとに本時の成果を認め、次時の練習への意欲をもたせる。	

8 観点別評価の進め方

前述した「6 指導と評価の計画」「7 本時の展開」のうち、表中に示した評価の場面における評価の手順は次のとおりである。

【音楽への関心・意欲・態度】

学習活動における具体の評価基準	◎具体的な評価方法 ○Cと判断される状況への働きかけ ○Aと判断するキーワード
① いろいろな郷土の音楽に興味をもって聴いている。	◎具体的な評価方法 鑑賞中の様子の観察や観賞後の発言から見取っていく。いろいろなリズムや、使われている楽器の音色を聴き取ろうとしている様子を見ていく。 ○Cと判断される状況への働きかけ 音楽を聴くことに対して、意欲がわからない児童には、音楽のリズムや声の出し方などに気を付けて聴くよう指導する。 ○Aと判断するキーワード ☐音楽を集中して聴き取ろうとする様子 ☐それぞれの音楽の特徴の違いを感じ取ろうとする様子 音楽に集中して積極的に聴き取ろうとする様子が見られる子どもをAの対象とする。
② リズムづくりに興味をもち、友達と協力し合って活動している。	◎具体的な評価方法 グループでリズムづくりをするときに、進んで友達と協力し合って活動している姿や個人で繰り返し練習したり教え合う姿を評価する。 ○Cと判断される状況への働きかけ グループに入ろうとしない子どもや、リズムづくりに取り組めない子どもについては、一緒について友達と活動できるよう支援や助言をする。 ○Aと判断するキーワード ☐リズムづくりをする場面で、自分の考えや友達の意見を採り入れながら活動する様子 ☐つくったリズムを拍の流れにのって合わせようとする様子 友達と協力し合いながら進んでリズムづくりをしている子どもをAの対象とする。

【音楽的な感受や表現の工夫】

学習活動における具体的な評価規準		◎具体的な評価方法 ○Cと判断される状況への働きかけ ○Aと判断するキーワード
①	郷土の音楽を聴いて、それぞれの音楽の特徴や構成を感じ取っている。	◎具体的な評価方法 いろいろな郷土の音楽を聴く活動を通して、それぞれの音楽の特徴や構成を感じ取ろうとする様子や発表から見ていく ○Cと判断される状況への働きかけ 音楽を聴くことに対して、意欲がわからない児童には、使われている楽器の特徴や歌われている歌詞などから音楽を感じ取らせるように促す。 ○Aと判断するキーワード □進んで音楽の特徴や構成を感じ取ろうとする様子 独特な歌い回しや、聞こえてくる楽器やリズムの特徴などを感じ取っている様子や発言から感じられる子どもはAの対象とする。
②	旋律とリズム伴奏のバランスを考えながら演奏している。	◎具体的な評価方法 グループでの活動からとらえていく。また、グループ練習の中で、主な旋律は聴こえているかリズム伴奏のバランスはどうかなどの発言をとらえていく。 ○Cと判断される状況への働きかけ 旋律とリズム伴奏のバランスを全く考えずに大きな音で演奏していたり、拍の流れにのって演奏していない場合は、他のパートの音を聴き合わせるよう注意を促したり、どのように演奏すればバランスが取れるか気付かせたりするようにする。 ○Aと判断するキーワード □旋律とリズム伴奏のバランスに細心の注意を払った演奏 □適切なバランスをとれるような工夫 旋律とリズム伴奏のバランスはどうか、演奏中の並び方や各パートの強さなどの適切な発言ができていく子どもをAの対象とする。

--	--	--

【表現の技能】

学習活動における具体の評価規準		◎具体的な評価方法 Cと判断される状況への働きかけ Aと判断するキーワード
①	自然で無理のない声で曲の気分にあった歌い方をすることができる。	◎具体的な評価方法 全体で歌う活動やグループや個人で歌う活動を通して、曲の気分にあった歌い方をしているか判断する。 ○Cと判断される状況への働きかけ 音程を取るのが難しい児童に対しては、友達の音をよく聴くように助言する。また、そばで一緒に歌いながら音程の取りやすい部分から繰り返し練習するようにさせる。 大声でどなってしまう子どもに対しては、まわりの音を聴きながら美しい響きとなるよう働きかける。 ○Aと判断するキーワード ☐ 曲想を生かした表現 ☐ 正確な音程と響きのある歌声 呼吸や発音の仕方や音程に気を付けながら、表情豊かに歌っている子どもをAの対象とする。
②	音量のバランスを考えながら、伸び伸びとした声で歌ったり、主旋律に合わせて副次的な旋律を演奏したりすることができる。	◎具体的な評価方法 グループ演奏や学級全体の演奏を通して自分が担当するパートの役割を理解し、その特徴を生かした演奏の様子をとらえる。 ○Cと判断される状況への働きかけ 自分のパートを演奏することだけで精一杯の子どもには、余裕をもって演奏できるよう難しい部分を取り出して、拍の流れにのって繰り返し練習するよう助言する。全体の音を聴き合いながら音量のバランスが取れるよう意識させる。 ○Aと判断するキーワード ☐ 各声部を生かした表現 ☐ 役割を意識した演奏 担当するパートの特徴を生かして表情豊かに演奏している姿や、その担当するパートが曲の中でどんな役割なのかを理解して演奏している子どもをAの対象とする。

【鑑賞の能力】

学習活動における具体の評価規準		◎具体的な評価方法 Cと判断される状況への働きかけ Aと判断するキーワード
①	郷土の音楽に親しみをもち、人の声や楽器の音色の特徴を感じ取って聴くことができる。	◎具体的な評価方法 いろいろな郷土の音楽に親しみをもち、人の声や楽器の音色の特徴などを感じ取って聴く様子を評価していく。発表や感想記入の内容からとらえるようにする。 ○Cと判断される状況への働きかけ 感想カードへの書き込みが難しい児童には、歌い方の様子や楽器の音色の特徴など少しでも記入できるように、問いかけていくようにする。 ○Aと判断するキーワード ☐ 郷土の音楽の意欲的な聴取、それぞれの音楽の特徴の聴き取り 旋律の特徴や楽器の音色などについて聴き取る姿や発言が見られたり、自分の言葉で感じたことを表現している子どもをAの対象とする。